

神戸製鉄所火力発電所（仮称）設置計画
環境影響評価準備書に関する

公聴会記録書

兵庫県農政環境部環境管理局

この記録書は、下記により開催した「神戸製鉄所火力発電所（仮称）設置計画環境影響評価準備書に関する公聴会」の内容を、環境影響評価に関する条例第18条第3項及び環境影響評価に関する条例施行規則第20条に基づき、別紙のとおり記録書としてまとめたものである。

記

1 日 時：平成30年2月3日（土）午前10時30分から午後0時40分

2 場 所：芦屋市民センター 301室

3 公述人

- | | |
|-----|----------|
| 1 番 | 芦屋市西芦屋町 |
| 2 番 | 芦屋市高浜町 |
| 3 番 | 神戸市東灘区 |
| 4 番 | 芦屋市朝日ヶ丘町 |
| 5 番 | 芦屋市平田町 |
| 6 番 | 芦屋市岩園町 |
| 7 番 | 芦屋市岩園町 |
| 8 番 | 芦屋市若葉町 |
| 9 番 | 欠席 |
| 10番 | 芦屋市呉川町 |
| 11番 | 西宮市柳本町 |
| 12番 | 芦屋市朝日ヶ丘町 |
| 13番 | 西宮市宮前町 |
| 14番 | 芦屋市三条南町 |

○公述番号1番

西芦屋町に住む〇〇といます。

計画されている石炭火力発電は、大量の二酸化炭素、つまり炭酸ガスを発生し、それは地球温暖化を促進させるので、私はこの石炭火力発電所建設に反対します。

炭酸ガスは地球温暖化をもたらすと言われてはいますが、昔、私はその理由を知らませんでした。

一つ目の話です。

今から40年弱前、大学の学科の同窓会において、同窓生の、研究室も一緒だった同窓生が来たので、それについて質問しました。彼は数年前まで日本環境学会会長をしておりました。その40年弱前、どこかの大学の教師をしましたが、地球温暖化では有名でした。彼が私に言いました。「〇〇、おまえ、赤外線吸収スペクトルを知らんのか」って。最近も彼に会うと、そういう失礼な言い方をしたかなとか言うんですが、言われて思い出しました。赤外線吸収スペクトルというのは、物質の分子構造を探るために赤外線を波長の短いほうから長いほうに向けてずっと動かしていきながら吸収を見るんですが、相当長波長、つまり熱線のところで見るとすごい吸収が出るんですね。それが炭酸ガス、空気中にわずか0.04%しかない炭酸ガスによるものだというのをそのときは知っていて、それを思い出しました。

二つ目の話です。

国立環境研究所地球環境センターの江守さんという研究室長が2010年に書物に書いておられます。地球の表面は太陽からのエネルギーを受け取り、それに釣り合うエネルギーをまた放出します。もし地球の大気に温室効果がなかったら、地表付近の平均気温、全体の平均気温はマイナス19度になることが計算されるそうです。実際には、地球の熱は大気によって吸収されるとともに、また一部、また地表に向けて放出されます。その結果、今の平均気温は14℃です。極端な例が金星です。金星は、もし温室

効果がなかったら地表付近の温度はマイナス50℃になるはずですが、実際は炭酸ガスを主成分とするすごい大気に覆われているために、実際の温度は460℃です。これは、地球もこれから炭酸ガスがどんどんふえていけば、どんどん熱が上がってくることを想定、上がる証拠となります。

さて、神戸製鋼所は、製鉄において天然の酸化鉄をコークス、つまり石炭によって還元し、鉄を製造しています。その結果、炭酸ガスを発生させています。しかし、鉄は人類にとって必要なのでやむを得ないかと思います。神戸製鋼所の鉄生産量は、2014年度700万 t、これによる炭酸ガスの放出量は、私の計算では410万 t です。

今度の石炭火力発電所建設により692万 t の炭酸ガスが放出されますが、これは神戸製鋼所の製鉄における炭酸ガス放出量410万 t よりも多いです。神戸製鋼所は、炭酸ガス放出に関して鈍感になっておられるのではないのでしょうか。

今、関西電力圏内は、電力は足りています。その中には天然ガスによる発電も含まれます。同じ電力を発生させるのに天然ガスから放出される炭酸ガスは石炭の1.8分の1、約2分の1です。

省エネ化が進む中で、今発電所を増設する必要はなく、神戸製鋼所が火力発電所を増設しても、近い将来電力の売り先がなくなるんじゃないのでしょうか。

以上です。終わります。

○公述番号2番

公述番号2番、芦屋市高浜町の〇〇といたします。

健康被害が予想される石炭火力発電所増設に反対します。

昨日、2月2日の朝刊を見て啞然としました。見られた方もおられるかと思うんですけれども、神戸製鋼が環境アセスメントの自主検証をした結果、環境影響評価準備書などに145カ所の修正が必要であったというたと、神鋼自身がそういうふうに発表なされたということでした。

たしか昨年末だったと思うんです。テレビで放映されたと思うんですが、製品性能データの改ざん問題を受けて、もう一度検証しなさいということで、この環境アセスメントについても検証をされて、その結果、データに問題ありませんでしたってたしか第三者委員会か何かの方がおっしゃっていたと思って、ああそうなんかと私はちょっとショックを受けてたんですけれども、この報道でいかげんなデータを出されているというのがよくわかりました。ただ、残念ながら私はどこが問題であるかなんて検証をもう一度自分で理解する力がないので、発表をうのみにするしかないんですけれども、いかげんなデータで2重、3重に私たちをごまかす神戸製鋼の信用性は全く失われておりますし、計画自体の撤回を望みたいと思っています。

今、世界は、地球温暖化ストップ、脱炭素、脱石炭化の流れにあります。石炭火力発電所は、火力の中でも最も二酸化炭素の排出量が多い発電です。それがデータでわかっている、今の2基に加えて新たに2基もつくるということ自身が理解できません。

高度経済成長期を多分皆さん経験されてきたと思うんですけれども、私たちは、四日市、尼崎、もしくはこの辺でしたら43号線沿いの排ガス、大気汚染による公害っていうのを御存じの方が多いいと思います。気管支ぜんそくであるとか肺気腫、慢性気管支炎等で赤ちゃんからお年寄りまでがとてもつらい思いをなさっていました。私は東灘区で40年間看護婦をしておりまして、そういう方たちとたくさん接してまいりまし

た。

今、目に見えて空気が汚れているわけではないのですが、汚染物質はやはりまだまだ、幾ら技術革新がされたといってもまき散らかされている現状にあると思います。だからこそこの火力発電所の計画には反対です。

特に大気汚染物質についての不安があって発言させていただきます。

灘浜からの空気の流れは、六甲山に沿って東北に流れて、芦屋では朝日ヶ丘、岩園地域に、特に重金属である汚染物質が濃度が高く落ちていくだろうというふうに言われています。でも、この地域だけが汚染されているわけじゃなくて、私たちが住む、私が住んでいるこの地域全般、南のほうでも、もちろん汚染されているわけです。

大気汚染物質の中で、私が特に怖いと思うのは水銀です。水銀と言って一番頭に浮かぶのは有機水銀の公害である水俣で被害を受けた水俣病なんですけれども、石炭を燃やして生じる水銀の26.1%が煙突から直接大気に放出されると聞いています。石炭火力では、年間170kgの水銀が灘浜から住吉、甲南山手、芦屋の朝日ヶ丘、岩園地域に多く降って落ちてきます。有機水銀になって土にしみ込んでいきます。子供が元気に走り回っている公園の土、運動場の土、砂場の砂、ガーデニングをなさっている方々のお庭、散歩コース、ハイキングコース、有機水銀で汚染されます。今の倍の力で汚染されていきます。雨が降ったら雨水とともに池や川に流れ込み、海に入っていきます。川の魚、渡り鳥、魚の体内に微生物を通して体内に取り込まれていきます。灘から西宮沖ってというのは、皆さん手軽に楽しめる釣り場として楽しんでらっしゃる方が多いと思います。芦屋川河口から人口ビーチでは潮干狩りもできるといういい環境になってきています。熊本有明湾で発生した有機水銀中毒の水俣病の悲劇に近いことがこの芦屋で起きる可能性があるということですね。

計画では、今後30年間稼働すると聞いています。でも延長されるかもしれません。何かおかしいなと思って、被害が出てからではもう全く遅いと思います。

水銀については、水銀条約が今年度から発効し、世界的にも人為的な水銀排出の削減、根絶を目指しています。ちなみに、日本の平成26年度の全水銀の排出量というのは17万 tらしいです。この1%を神戸製鋼は空中に放出するということになります。許せません。

また、これは世界の流れにも逆行します。大気はみんなのもので、神鋼という一企業の利益のために私たちが健康被害をこうむることはおかしいと思います。

ちなみに、燃料を石炭ではなく天然ガスにすればほとんど水銀は出ないそうです。

福島の原子力発電所の事故以降、再生可能エネルギーや節電などで電力需要も低下しております。消費者もできるだけ不要な電力は消費しない、浪費しない努力をしています。原発事故直後、節電のために町中の明かりがかなり消した時期がありました。それでもひどく不便ではありませんでした。生活できました。

今、灘浜に石炭火力発電所を新たにつくる必要はないと思います。

次に、膨大な温排水です。

大量の海水とまぜて海に放出されます。海水温がポートアイランドと六甲アイランドの間の水域で3度上昇するそうです。放出口付近では7度高くなった海水が放出されています。この熱水が拡散するのですが、排水にも脱硫装置からの洗浄水が含まれるそうです。そしたら、この汚染水が海にどんどん流れ込んでいきます。この水域は極めて流れが緩やかで、長い時間とどまるそうです。海水温が高い状態の海は、海環境だけでなく気象にも影響していきます。

海環境や陸環境についてのアセスメントのやり直しを強く求めます。海の生物への影響は、回って必ず我々人間にも反映します。

神鋼は世界に名をとどろかせ、兵庫の誇れる企業です。石炭火力発電所に固執せず、今後30年にわたって地球に負担をかけない方法を考えていただきたいです。石炭火力発電所の計画は考え直してください。ありがとうございました。

○公述番号3番

公述番号3番、神戸市東灘区、芦屋市とは仕事でかかわり、また休日でもそのルナ・ホールをしょっちゅう利用しております。

私、環境アセスを神戸製鋼は取り下げるべきだと思います。

理由は五つあります。

一つ目は、10月12日の記者会見で川崎社長自らが「神戸製鋼の信頼はゼロになった」と認めています。会社のトップが自社に信頼がないと認めている中で、しかも外部調査委員会の調査も終わっておらず、同じ会社が発行した環境アセスが適切に作成されたと言われても到底受け入れることはできません。

昨年10月11日の神戸新聞の記事では、取材に「神戸製鋼は適切に調査や予測・評価を行っており、信頼性は確保されている。適切に環境アセスメントを進めさせていたきたい」と答えたとあり、神戸製鋼の置かれた立場をわきまえていない厚顔無恥なコメントだと感じました。

社長が「神戸製鋼の信頼はゼロになった」と言っているのだから、社長から「神戸製鋼の社会からの信頼は回復した」と宣言が出るまで、今後30年以上にわたって公害源を排出する発電所の環境アセスを取り下げるのが、社会の中で活動するまともな会社としての動きでないでしょうか。社長の発言を無視あるいは軽視しているのでしょうか。本社コーポレート部門と事業部が意思疎通取れていない状態でしょうか。会社が一枚岩でなくガバナンスが機能していないから、本社の知らないところでアルミ事業における偽装が長年継続して行われてきたのではないのでしょうか。同じ構図を繰り返しているのですか。ましてや、外部委員会の報告書により、今回の原因と再発防止策が提示され、対策の効果が有効であると確認されるまでは環境評価書を取り下げるのが社会的に常識ある会社の対応でないでしょうか。内部からもそういう倫理感のある意見は出ないのでしょうか。社会から信頼がゼロのまま、利益追求のため計画

を突き進めるのでしょうか。本質問に対する回答は事業部長どまりにせず、社長にも確認した上での回答をください。

二つ目は、神戸製鋼は過去に神戸と加古川製鉄所で排ガスデータ改ざんによる大気汚染防止法違反を犯している前科があることです。

どんなに環境アセスが環境基準を満足していても、実際に運転する会社が過去にデータ改ざんした実績がある場合、今後もコスト優先、操業度優先のため実際に排出される環境データの改ざんを繰り返すことも容易に想像できます。過去には、神戸では環境値を越えそうになるとゼロのデータが出力されるようにプログラムを改ざんしており、加古川では環境値を越えそうになると記録用紙のペンの針を浮かせて、記録が取れないようにしていました。

これらの動機を含めた真の発生原因については、社内の背景などを深掘りした説明はなく、組織的関与があったのかどうかも明らかにされていません。例えば、排ガス値が環境値を越えそうになったときの対応の裏手順書が代々引き継がれてきた、作業員へ上司からの指示があった、どの階層まで関与していたかなどの真の原因説明がないために、当時公表された再発防止策も実際に効果があるのかわかりません。その後も神戸製鋼において、当時の社長、会長が政治資金規正法違反の事案により引責辞任し、類似案件が再発したことからも社内で水平展開されておらず、社内調査は上辺だけのお手盛りの再発防止策となっていることは否定できないと思います。

当時の大気汚染防止法違反行為に至った原因調査を、今実行中のアルミ強度データ偽装の外部調査並みに調査して初めて、有効な再発防止策が立てられるのです。表面的なものでなく、動機や背景を含め、組織的関与があったかなどの真の調査結果の公表をお願いします。

三つ目は環境アセスの大部分が計算による予想であること。

既存発電所のときに予想評価を実施したなら、そのときの予想と事後の結果を比較、

評価することで予想に使った手法や計算式の妥当性が評価できるのに、そういう科学的なプロセスを実施せず、この計算式を用いて実施したと計算された数値を並べて報告書が構成されています。“私を信じてください。”“私はこう考える”的な一方的な評価をしているため、予想値の妥当性が確認できていないことが問題です。予想だけの評価項目は、その後の事後調査を実施するのかもしれないと思いきや、事後調査するとは宣言していません。

せっかく目の前に評価式の妥当性を議論できる既存発電所という貴重なデータがあるのにそれを活用しないということは、事後調査したら予想と大幅に悪化するデータが出てきて、何かやましいところがあるのではないかと疑われます。それらを晴らすためにも、予想だけではなく、全ての環境汚染に寄与する値の事後調査の必要性を訴えます。

環境アセスの意見に対する回答のうちほとんどが、「環境への影響は小さいと考えております。」などの表現で結んでありますが、小さいと考えているのは神戸製鋼側の考えであり、最終的な影響が小さいという事実を証明する必要があると思います。そのためには検証が必要だと思います。

神戸製鋼のこれまでの行為などから、“影響は小さいと考える。”だけでは不十分であるため、検証実行計画を求めます。

四つ目は、環境アセスに対する市民からの意見の中で、「神戸製鋼は過去に不正を起こしたから今回のデータは信用できない。」という趣旨の意見が多数出たのに対し、神戸製鋼の回答では、「事業にかかわる法令の遵守を徹底するとともに、コンプライアンスに対する感度の高い組織文化の醸成を目指して、継続的に取り組んでおります。中略。高い倫理観とプロ意識の徹底として、法令、社内ルール、社会規範を遵守する」との回答となっていることです。

この意見書の回答が出たのは9月であり、8月にアルミ強度偽装のことが役員に報

告され法令、コンプライアンスを守っていないのがわかっていたのだから、このような回答をしたのは盗人たけだけしいと考えます。

あるいは、この回答を作成する部門にはアルミ事業の不正のことが伝わっていなかったのでしょうか。それはそれで内部統制がとれておらず問題です。

いずれにせよ、これらの回答は事実と異なる虚偽であり、この回答の修正ができていない状態で環境アセスを通そうとするのは余りに不誠実な行動だと考えます。内容を事実に即し、外部委員会の報告書をもとに修正すべきだと考えます。

五つ目は、環境影響評価の中で以前、データを神戸製鋼の都合のよいように意図的に操作している資料が散見されていることが挙げられます。

わかりやすい例として挙げるのが、煙突から白煙が1年間で何%見えるのかという資料です。ここでは、6時から8時までしか視認対象としておりません。遠目にも夜間でも周りの明かりが明るいため、これ夜撮った写真なんですけど、遠方からでも白煙を見ることができるのに、視認対象時間から夜間を意図的に外しています。観察場所からは夜間は視認できないのでしょうか。それともカメラの露出を変えて白煙が夜間写らないようにわざとしたのですか。夜間を対象外とした理由はなぜですか。実際に目視で見える白煙を見えないとして対象から外すこと自体が非常にこそくなデータ統計のごまかし方だと思います。

さらに夜間を見えないと対象から外しただけでなく、求めた結果は、これ次のページなんですけど、母数として夜間を含めております。観察した時間に対して白煙を確認できた時間の割合を見るべきものを、夜間は見えないとして意図的にデータ対象から外すだけでなく、夜間の時間を%を求める際の統計の母数としてカウントしています。これらはデータを操作していると指摘されても弁解の余地はないと思います。

報告書では、視認率は一桁の数値と少ないから問題ないという結論づけています。これが夜間も含めると値は変わり、委員に対しての印象は大きく異なります。これは

解釈上の違いではなく、意図的に対象データから除外し、算術的に結果を操作して説明相手をごまかそうとする資料の例として挙げたいと思います。そのようなデータ操作をする業者が作成した資料を信じることはできません。

さらに点検などや特殊事情で停止していたときの時間は、当然白煙は出ないので、それらの時間も母数から減らすべきだと思います。新設2台になると常に1台は動いていることになるので白煙の見える時間も見える割合もふることになります。誤解させるデータ説明を見直すべきです。その他にもありますが、ここでは言いません。その他にもないか再点検してください。

以上、説明した五つの理由により、環境アセスには作成者の信用、倫理、技術的にも問題があることは明白であり、環境アセスを直ちに引き下げることを希望します。

さらに、神戸製鋼は、約束したことが本当に守られるのか、試金石となる事例を示します。

加古川製鉄所の粉じん対策として、県からの指示の対応として、防じんフェンスの設置、散水、集じん機を設置し、効果を見きわめながら原料ヤードの建屋化の検討を継続すると、当時、県と神戸製鋼は約束し、これは議事録にも県の資料にも残っております。昨年5カ月連続で降下ばいじんが目標値を越えて、意見書質問149の回答によると、対策委員会を発足したとありますが、これまでの対策に効果がなかったのだから建屋化の話も委員会で当然出ていますね。検討状況を教えてください。

あと、先日、環境ダイヤルに電話をかけ、煙突から出る成分を聞いたら水蒸気です、安心して下さいと言われました。NO_x、SO_x等を含まれているの、貴社員に正しく伝えるように教育をお願いします。

また、環境ダイヤルがホームページのどこにあるかわかりません。トップに表示されるようにお願いします。

アルミ強度データ偽装に端を発した外部委員会の報告書で全社ガバナンス体制が刷

新され、電力事業部門にも品質監査部門ができると聞いていますが、ネットへの公開だけでなく、再発未然防止策がこれまでと比べ、どのように改善され有効に機能するか市民に対して公開説明会をするべきである。

物理的には不正をしようと思えば幾らでもできる現状を、それをどうやって防ぐか、過去に発生した事件の真の原因説明とともに参加者に向かって再発防止策を説明、宣誓するべきである。例えばコスト低減するには脱硝装置のアンモニア注入量を減らすことが挙げられる。これを防止するにはどうするのか。また、検査後の再立ち上げでボイラチューブに付着したスケールが煙突から大量に噴き出るのをなるべく見えないようにするため、夜間に再起動していると思うが、再起動の際には煙突からごみが大量に噴出されていることが起きているということを公開して、その際には洗濯を部屋に取り込むなどを促すように市民にこういった情報公開すべきです。

神戸製鋼は生まれ変わったというアピールをこの機会に実施したらどうか。それがないと社長の言うように、「神戸製鋼の信用はゼロになった」ままであり、このまま強引に突き進むと今度何かあったら本当にあとがない状態になることを肝に銘じて、公開説明会を開催すべきです。

神戸製鋼は神戸に本社を置いている企業として、これまでの再三の不祥事、事件を起こしても蜜月関係にある兵庫県、神戸市の庇護を受けてきました。これが消費者を対象にする会社であればとっくの前に消滅していたことを肝に銘じて、ローカル企業としてでなく、真のグローバル企業として生き残ろうとしているのなら、庇護に甘えてあぐらをかくことなく、みずから信頼回復につながる行動を起こすべきです。

また、法律に違反していないからと万事にわたって強引に押し進めることはやめてください。法律・コンプライアンス違反していない会社ならこのことは説得力がありますが、神戸製鋼は違うのでその論理は通りません。まず、お互いに信頼できるという社会契約が前提のもとで社会は成立しているので、その信頼の前提が崩れた存在で

は、どんなことを言っても信頼されないことを理解してください。

ここは一度環境アセスを取り下げ、信頼が回復されていることをみずからの手で証明して見せてから再提出してください。情報を開示して地域の中で対話しながら存続する企業に変わることを望んでいます。

前例のないことをするには勇気が必要だと思います。それにより社会契約成立の前提である信頼回復につながる神戸製鋼は生まれ変わったぞと示すことができる第三者による検証の導入と公開説明会の開催をしてくれることを期待しています。

ぜひ、きょうの公聴会でこのような声が私だけでなく多くの市民から出ているというのを事業部長どまりにせず、取締役の議題に上げてもらうよう対応をお願いします。

前代未聞のデータ偽装行為に対して、社会や顧客を混乱させただけでなく、世界からも日本の製造業、日本の信頼失墜をもたらすきっかけとなりました。多くの市民は「あの企業がまたやったのか、起こるべきして起こったことだね、根が深い事件だ」と思っています。そのような企業に環境を悪化させる施設を託したくないというのが多くの市民の思いです。

このような状況においても、住民には説明した。自分たちが法律を守らないのに、法律に基づいて計画したとして同意を得ずに進める、動機は一体何なのでしょう。過去の事件からはいずれも利益の追求ということが共通の動機になっていると思います。自社の利益の追求だけで石炭火力を選んでいるのでしょうか。利益と住民の健康、生活環境の悪化とのどちらが大切と考えているのでしょうか。社会的な効用がプラスになるというのなら定量的な説明をお願いします。鉄をつくるには石炭が必要ですが、電気は石炭でなくても代替可能です。住民の健康に与える影響を軽視し、自社の利益の追求だけで燃料の安い石炭を選んだなら、社会と共生する企業とは言えません。

外部委員会を設置せざるを得ない事件を起こした会社の状況では、石炭火力の環境

影響評価項目は白紙に戻すべきと思いますが、時がたてば忘れられると考えられているのでしょうか。一旦取り下げること、数年後に事業環境も変わり、あのとき無駄な投資をしなくてよかったなとなる可能性も大いにあると思います。ぜひ計画の再考をお願いします。

○公述番号4番

芦屋市の朝日ヶ丘町に住んでいます。○○といます。

神戸市灘区神戸製鋼所石炭火力発電所の増設計画に反対の立場で公述します。

今、世界中でさまざまな大きな気候変動が起きています。台風やハリケーンは大型化し、日本国内でも豪雨災害が毎年のように起きています。アメリカでは山火事も相次いでいるようです。温暖化でグリーンランドの氷が溶ければ、世界の海面水位は7メートルも上昇するおそれがあると科学者は警告しています。農業や漁業にも影響が出ています。人類が地球に住めなくなる危険性が深刻化してきています。

2015年12月のパリ協定は、こうした地球の危機に対して、世界の温室効果ガス排出量を実質ゼロにするという画期的な新たなルールとなりました。世界中で温暖化の危機に立ち向かっていくということが確認されたのです。このパリ協定のポイントの一つが、地球温暖化をもたらしている大量のCO₂を発生させる石油や石炭などの化石燃料を燃やすことをやめようということです。今から30年後の2050年には、エネルギー利用によるCO₂排出実質ゼロにしようと決めたのです。日本政府も、温室効果ガス削減を2050年には80%削減するということを閣議決定しています。それを実現するためには、これから石炭火力発電所は稼働できなくなっていくのです。今回の神戸製鋼所石炭火力発電所増設計画は、こうしたパリ協定の流れに真っ向から挑戦するものであり、認めるわけにはいきません。2050年までの30年間稼働し、その間もうけが出ればそれでよしとする神戸製鋼所の姿勢は、自社の目先の利益だけを考えるもので、とても人類の未来を考えているものではありません。中止すべきです。

過日放送されたNHKのスペシャル番組「激変する世界ビジネス 脱炭素革命の衝撃」は、私にとっても衝撃でした。ビジネスの世界でも化石燃料は化石化し、投資家たちは自然エネルギーへと大きくその投資先を変えています。

石油産出国アラブ首長国連邦では、砂漠に大規模な原発1基分の太陽光発電所が建

設され、その電力は1kWh、2.6円。日本の石炭火力発電の5分の1。劇的な価格破壊と報じられていました。ビジネスの面でも化石燃料は自然エネルギーに太刀打ちできなくなってこようとしています。

そうした世界の流れがある中での今回の神戸製鋼所石炭火力発電所増設計画は、原発での東芝の失敗のように先を見ることができない企業経営者の姿を見てしまいます。小さくなった世界の大きな流れの中で、日本だけが特別ではあり得ないと思います。増設計画の見直しを求めるものです。

私が住んでいます朝日ヶ丘町は、芦屋川の東側の山手地域に当たります。神戸製鋼所の環境影響評価準備書のあらましによりますと、今回の石炭火力発電所増設計画では、発電所から北東約8.2km付近、このあたりが二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質の最大着地濃度地点となっています。芦屋の山手できれいな空気を吸っていると思っておられる方が多いと思うのですが、実際は20年前の1・2号機建設以降は、南西の風に乗って、六甲山系に当たった神戸製鋼所石炭火力発電所の二酸化窒素や二酸化硫黄、浮遊粒子状物質が降り注いでいる地域になっているのです。

50年前に小児ぜんそくで市内の2号線沿いからこの地域に引っ越してきて、小児ぜんそくがおさまったという方が、最近の朝日ヶ丘当たりの空気のデータがよくないのはなぜかと思っていたが1・2号機の影響があるんですねと語っておられました。

今回の増設計画では、汚染物質最大着地濃度地点になるわけですから、さらに芦屋の山手地域の環境を悪くすることになるわけです。

また、私と同じマンションに住む方の娘さんとお孫さんは、同じ朝日ヶ丘町内の別のマンションに住んでおられます。お二人とも現在ぜんそくぎみで吸入をしていると言われています。これ以上空気を悪くしてほしくないと言っておられました。

芦屋市は、国道2号線、43号線、阪神高速道路と幹線道路による自動車公害対策を求められている地域になっています。環境省は、芦屋市を自動車NOx・PM法対策

地域に指定しています。今回の石炭火力発電所増設計画は、今でも特別な対策を必要としている芦屋市にさらに環境負荷を与えることとなります。市民の自主的な調査で環境基準以上の地点が市内の43号線、阪神高速道路沿線にある中で、新たな汚染物質の流入は認められません。

芦屋市は良質な住環境を売りにしている住宅都市です。環境がいいということで住みつけた比較的高収入の方により、住民税が多く、自治体財政を賄っています。芦屋は空気が汚いということになれば、そうした自治体の基盤が揺らぐことになりかねません。神戸製鋼所の法人市民税が入ってくるわけではなく、汚染物質だけがもたらされるということになるわけです。

今回の石炭火力発電所増設計画は、神戸市や芦屋市、西宮市と人口が多い地域につくられるという世界でもまれなものです。だからこのような汚染物質の影響を多くの住民が受けるということにつながるわけです。今の1・2号機だけでも問題なのに、人口密集地建設という点でも増設計画は撤回されるべきです。

神戸製鋼所のデータ改ざん問題が明らかになりました。データ改ざんは今回が初めてではありません。2006年には神戸、加古川2製鉄所のばい煙測定データが改ざんされていました。入力されたデータを自動的にグラフ化するためのペンが基準値を越えようとしたら、担当者がペン先を持ち上げて記入しないようにしたほか、手入力で実際とは異なるグラフを書き込んでいたりしたものです。地域の住民を欺いていたのです。

今回の製品データ改ざん問題では、規格に合っていない場合でも検査証明書を書きかえ、規格どおりの製品として出荷していました。改ざんは組織ぐるみで行われたと言われています。さらに神戸製鋼所の予会社による製品データの改ざんについては、実際の測定値そのものが改ざんされていました。2006年の教訓は生かされていなかったのです。

データ改ざん発覚後に、兵庫県や神戸市では今回の準備書に記載されたデータ等の検証を行うとしていましたが、結局は子会社作成の実際の測定値データについての検証は行われていません。過去の経緯からしても、今回の改ざんにしても、実際のデータそのものの検証がなくては、信頼性を担保できないというのがこれら神戸製鋼所のデータ改ざん問題ではないでしょうか。

今後、このままアセスメントが進み、建設が行われ、稼働した際に、その影響を受けるのは私たち市民です。実際の環境データの測定をやり直すことを求めます。

神戸新聞の報道では、データ改ざんに伴い開催された一昨日の神戸市環境影響審査会では、市長宛てに神戸製鋼所が提出した修正資料に食い違いがあったことを明らかにしています。結局、神戸市長に提出する予定の答申案についての結論は出ないままになっています。審査会会長の武田義明、神戸大名誉教授は、神鋼の対応は不誠実に感じる。データがいかげんだと審査できないと述べたと報じています。こうした状況でアセスを進めていくには無理があります。

私は、石炭火力増設計画には反対です。しかし、兵庫県がどうしても進めるというのであれば、また兵庫県が、少しでも県民の命と健康を守る立場に立つのならば、神戸製鋼所やその子会社ではなく、信頼できる第三者による環境影響調査等のやり直しを行い、その結果を市民的に明らかにしていくことを求めます。

以上です。

○公述番号 5 番

芦屋市平田町の〇〇と申します。

パリ協定に示されるように、地球規模の気候変動に立ち向かう世界の取り組みのもとでは、神戸製鋼所の石炭火力発電所の増設は論外だと思います。もともとあった2基をいつまでに停止し、廃止するのか、それこそが今問われていると思います。

水銀などの汚染物質の問題につきましては、ほかの方も言及されておりますので、私は専ら地球規模の気候変動とのかかわりでCO₂の排出問題について述べることにします。

最近までCO₂排出規制への抵抗勢力と言われてきたインドや中国でも政策を転換させております。2010年から16年の間に、インドでは計画されていた石炭火力発電所の74%が中止され、既存の石炭火力発電所の閉鎖も始まっている。アメリカや中国でも石炭火力発電を抑制するようになってまいりました。

もともとCO₂排出に対して積極的に臨んできた国の中では、例えば、イギリスでは、去年の4月に石炭火力発電をやめております。フランスは2023年に廃止、カナダは2030年に廃止ということを決めております。石炭火力発電の依存度が高いドイツでも脱石炭の検討が始まっています。

そのような世界の流れに全く逆行し、神戸製鋼所が神戸市内に2基の石炭火力発電所を増設するというのは驚くべきことだと思います。

神戸製鋼所には、みずからの起業の目先の利益に埋没することなく、地球規模の環境改善に進んで取り組む姿勢が求められております。

気候変動問題を直視する世界的な大企業は、社会的責任の視野とともに経営的な視野からしてもCO₂排出量削減に正面から取り組んでいます。世界の機関投資家もCO₂排出規制が強まれば石炭依存企業の業績悪化が起こることを見越して、これらからの投資撤退を始めています。

神戸製鋼所の現在の姿勢には、同社出身である安倍晋三氏率いる政権が、世界の流れに背を向け、原発と石炭火力発電に依存する政策に固執している、そのような事情が働いていることはよく見えるところでありますけれども、時々の政権の思惑に追随して、中長期の展望を持たずに突き進むことは同社の経営にも、また、地域経済にも、もちろん周辺地域の環境にも取り返しのつかない結果を招きかねません。

神戸製鋼所は、既存2基の神戸石炭火力発電所だけでも年間約700万tのCO₂を排出しており、増設によって約1,400万tとなる。これは、神戸市全体の間接排出量1,200万tを超える巨大な量であると言われております。長年月地域に支えられてきた企業としては、神戸市全体のCO₂排出量の削減に貢献するべく率先して取り組むことこそ求められております。

この計画が実施されるならば、神戸製鋼所の県内事業所のCO₂総排出量が大きく増加することは明らかでありますし、神戸製鉄所だけをとってみても高炉が廃止されたことによる減量分を大きく上回ります。

関電への売電によってCO₂排出量は関電に移転するとか、一般市民の努力による排出量削減効果などまで計算に入れて総排出量は減少するなどという詭弁を弄すれば弄するほど、同社の社会的信頼を低下させるだけでありましょう。既設と新設の石炭火力発電所から年間約1,400万tものCO₂が排出されることはごまかしようのないことであります。総排出量を増加させないこととの知事意見は当然のことでありまして、同社にこの知事意見を謙虚に受けとめさせることが必要だと考えます。

さきに、安倍政権とのかかわりに触れましたけれども、政府のまことに不十分な計画ですら2050年までに温室効果ガスを80%削減するとしております。神戸製鋼所が関電と交わした売電契約がちょうど2050年までとのことでありますけれども、それは政府の公約の足を引っ張ることにもなります。

昨年発覚したデータ改ざんで神戸製鋼所の経営姿勢、経営理念への信頼が再び失墜

してしまいました。それ自体は1民間企業の不祥事、反社会的行為でありますけれども、関係機関が石炭火力発電所増設計画は認められないとの断を下していただき、神戸製鋼所が増設計画を撤回し、さらには、既設石炭火力発電所の廃止に向かうならば、それは自然環境の保全・改善に貢献するとともに、結果的に同社の社会的信頼回復への大きな一歩となり、ひいては地域経済の安定的発展にも寄与すると思います。ぜひとも本環境影響評価準備書は認められないとの意見を出していただくよう重ねてお願いして、私からの意見陳述を終わります。ありがとうございました。

○公述番号6番

6番の岩園町に住んでいる○○といいます。

回答はないと思うんですけども、質問形式で意見を述べさせていただきたいと思っています。

まず、神鋼の石炭火力発電ということなんですけれども、なぜ石炭火力なのかということですね、それを聞きたいと思います。

石炭が最高にいいということなんでしょうかね。発電するだけならば環境負荷に影響の少ない自然エネルギーというのが既にあるんですけども、なぜ石炭火力なのかということですね。さらに、石炭ということで、天然ガスもあるんですけども、採用しないのは、これは事業性だということなんですけれども、二つ目に、ではその事業性というのは何なんでしょうかということですね。トランプ流に言えば企業ファーストということなんですかということ、利益最優先ということになってるんですかね。

これは、思考停止ということになっているのかなという部分だとは思われます。それで市民福祉ということとどうかかわるのかということは考えておられるんでしょうか。

それから、三つ目は、水銀も排出されるということで、これは本当に水俣条約というのは確保されてるんですけども、それに、趣旨に合うのかどうかですね。本当に有機水銀というのは体に取り込んではいけないものなんですけれども、それを大量に発生させて空中にまき散らすということですね。それでいいのかどうかということをお考えいただきたい。

四つ目は、知事が求めたCO₂の総排出量を増加させないということに対しても神戸製鋼は回答していないということなんです。

私、岩園町なんですけども、いろいろな汚染物質が、濃度が高く落ちてくる、降下

してくる場所だということをおっしゃると、非常に嫌だなと考えております。ということで、それをどう考えておられるのかと。市民生活をどう考えておられるのかということをお聞かせください。

5番目に温排水ですね。排出するということ。それによって海水の環境悪化を招くということをおっしゃっております。1・2号機も7度ぐらい高い水が温排水が出ているという。3号機もそうですね、量をふやしてさらに海水を悪化、温度上昇による悪化を招く。さらにその中に薬剤が入っているようなんですけれども、薬剤の影響も考えられるということで、その悪影響をどう考えておられるのかということをお聞かせください。

それから、もう一つは、世界的にもおっしゃっている環境をよくしようということでパリ協定おっしゃってますけれども、その方向に逆行しているのではないかと。ということで、COP会議でも日本は化石大賞というのをもらった、不名誉な賞ですけれども、もらったということなんですけれども、世界の方向をどう考えているのか、これからの方向です、どう考えているのかということをお聞かせください。

以上のようにいろいろな懸念があります。地域ですね、少水力発電とかね、あと小規模発電とか、そういうようなエネルギーですね。地産地消って、地域で発電して地域で消費するというエネルギーの地産地消、エネルギーの自給化ですね、そういう方向で、大規模発電はさまざまな懸念、心配のあるこういう発電はやめていただきたいということ、中止をしていただきたいということをお聞かせください。

以上です。

○公述番号7番

7番、芦屋市岩園町在住の〇〇といます。

私は、神戸製鋼所の姿勢と、兵庫県の姿勢について述べたいと思います。

神戸市は、1950年代より山を削りって海を埋め立てるという方法で臨海部に工場、山地を住宅地にという開発を進めてきました。一定の成果はあったと思われます。しかし、その結果、自然海岸は失われ、市民から海を遠ざけてしまいました。これは兵庫県全体でも言えると思います。そして、採算のとれなくなった工場は閉鎖されようとしています。神戸製鋼所の高炉は、地元の住民にとっては、かつては空を真っ黒にした迷惑施設ではありましたが、ある意味ちょっと誇らしいものでありました。技術が向上して、排気ガスが見た限りきれいになり、高炉のある風景は周りに溶け込んでいるようにも見えました。大震災の折には、高炉の復旧に努力する技術者の姿に感動し、応援しました。しかし、今回高炉が閉鎖されると聞き、正直残念な、寂しい気持ちになりました。しかし、その跡地に石炭火力発電所を建設する計画があると知り、大変驚きました。

改めて神戸市、兵庫県の姿勢を聞きたいと思います。一体海は誰のものでしょうか。山は誰のものでしょうか。空は誰のものでしょうか。企業の都合のいいようにさまざまな犠牲を市民に強いながら、企業に奉仕するのが自治体の役割なのではないでしょうか。

神戸製鋼所に聞きたいと思います。鈴木商店の時代から神戸に根づき、多くの従業員とその家族を養い、支えてきました。神戸の誇るべき企業であると思っています。私の父は一生神戸製鋼所で働き、それを誇りに思ってきました。しかし、昨今、製品や排ガスのデータ改ざんなど、残念なことが多く発覚してきました。そして、環境をうたう企業としては、考えられないような今回の石炭火力発電所計画が持ち上がっています。今までさまざまに支えてきた住民に対してこんなお返しがあるのでしょうか。住宅地のど真ん中にそのようなものをつくるべきなのではないでしょうか。真摯に住民の声に

耳を傾けて、今後の御社の進むべき道を誤るよう熟慮してください。住民に信頼されなければ企業は成り立たないのではありませんか。

そして、環境について考えます。

高炉の敷地の土壌汚染について調査結果を拝見しました。敷地内に閉じ込めておくので問題はないとありました。しかし、地下に水は予想しないような流れがあります。海に対して影響はないと言い切れるのでしょうか。

先ほどもおっしゃっておいりましたように、発電所が設置されますと温排水の問題があります。これは、大阪湾の環境を随分変化させてしまうのではないのでしょうか。せつかくいろいろな公害から少しずつ立ち直って、海の環境もよくなってきたと思うのですけれども、この温排水というのは非常に大きな影響を及ぼすと思います。

それから、大気についてですが、大気はやはり全ての人のものであります。企業が独占して汚していい、使っていいというものではありません。現状でも汚染物質が私の住んでいるところにもやってきているということです。これ以上増やすのではなく、なくしてほしいと考えます。

それから景観ですけれども、神戸市は特に山を開発して、山のぎりぎりのところまで土を取って、そして海へ持って行ってしまいました。せつかく高炉が廃止されるのであれば、そのお返しとして、お礼として、そこを環境のよい森にするとか、みんなが集えるような場所にするとか、そのような方法で住民にお返しをしていただけないものでしょうか。高炉をまた発電所をつくって、住民の厳しい目にさらされるというようなことでなく、そこをもっといい利用の仕方、それを考えていただけたらと思います。兵庫県はそのあたりをよく考えていただいて、厳しく判断をしていただきたいと思います。

○公述番号 8 番

芦屋市若葉町の〇〇です。

神戸製鋼所の石炭火力発電所に反対であり、撤回を求めて意見を述べたいと思います。神戸製鋼所の製品データ改ざん問題が発覚し、建設予定の石炭火力発電所の環境アセスメントの信頼性が損なわれました。石炭火力に関して神鋼が芦屋市ルナ・ホールで行った説明会では、神鋼が準備し配置された自社関係者で会場が埋め尽くされておりました。そうしたやり方自体にも疑念を持たざるを得ない思いです。

神鋼は現在稼働中の発電所、140万kWに加えて、さらに130万kWの増設計画を住民の反対を押し切って進めようとしています。電力事業だけで毎年400億円もの利益を生み出す稼ぎ頭と報道されていました。このたびの神鋼が公開した環境影響評価に関する書面では、増設される発電所から排出される大気汚染物質の最大着地濃度地点が芦屋市となっています。朝日ヶ丘小学校の東周辺とされています。子供たちへの健康への影響をどう考えているのでしょうか。

私は第一に、なぜ人口密集地域に巨大石炭火力発電所をつくるのかということです。日本でも世界でも、他に例を見ない不適地だというふうに考えます。この地域の特徴である西風により、神戸市東部及び隣接する芦屋市への影響は深刻です。年間317万t、1日に10トントラックで1,000台分に相当する、それに近い石炭を燃やす。長年にわたって燃やし続ける。これにより環境に蓄積される負荷、ここに暮らす人々への影響を真剣に考えるべきではないでしょうか。

第二に、この地域は大気汚染物質である硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、NOx、PM2.5等の総量規制の対策地域とされています。全国で3つの地域がこれに入っているわけですが、よりによってなぜこの地にさらに石炭火力発電所をつくってくるのかということです。ぜんそく患者の苦しみを御存じでしょうか。ぜんそくの発作が出ると、せき込んでせき込んで死ぬかと思うほど苦しまれる。そんな様子を知

っているのかと言いたいです。

第三に、地域の周辺は光化学オキシダント、PM2.5の基準を達成されていないところでは、それらの原因物質が石炭火力発電所によってさらに増加することは避けられないです。石炭火力によりPM2.5等の影響がどの程度出るのか、明らかにされていないのは問題です。

第四に、水銀等重金属の年間総排出量についてのデータも明らかにすべきです。水俣条約を発効し、排出量削減への規制が始まっています。これ以上出せないということです。神鋼の計画では、水銀の4分の1は煙突から放出されるようになっています。これが西風に乗って、多くが芦屋市に着地するおそれが予測されます。残りの約4分の3は集じん機や排ガス浄化装置で除去されるとしていますが、消えてなくなるわけではありません。その多くは大気や海に排出されることは避けられないです。神鋼は水銀の排出量を現状と新設後について明らかにされるよう求めます。

第五に、温室効果ガスの問題です。石炭火力発電は天然ガス発電の2倍以上のCO₂を排出し、温暖化防止に逆行します。日本政府は2050年までに80%削減を閣議決定しています。神鋼石炭火力の排出量は1,400万tであります。神戸市全体の総排出量1,200万tを大きく上回るものです。これは政府の削減方向にも逆行することをどう考えているのかを伺いたいと思います。

現在、電力の消費は減ってきています。夏のピークの需要が関西で、東日本震災前と比べて15%減少しています。今後さらに減少が予測されるのではないのでしょうか。ここで作られた電気は大阪へ行き、もうけは神戸に入り、汚染物質は芦屋にとというのはごめんです。

そうしたことも含めて、今回の巨大な石炭火力発電所の新設を見直されるように強く求めて意見とします。

○公述番号10番

芦屋市呉川町の〇〇です。

神戸製鋼による石炭火力発電増設計画に反対の立場から環境影響評価準備書に対する意見を申し述べます。

私の意見の論点は2つです。1つは環境の保全面からの問題。2つは電力の需給状況から見た今後の地域社会の環境創造に関する問題です。既に何人もの方が同じ視点から意見陳述しておられますので、ダブるところが多いかもしれませんが、それだけ多くの方が問題意識を持っていることとして受けとめていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

まず1つ目の環境保全面からの問題ですが、私の問題意識として地球環境というグローバルな視点からの問題があります。

現在地球規模で、あるいは世界的規模で人類の生存条件を根底から脅かす切迫した問題として指摘され、取り組まれているのが、核兵器廃絶の課題と地球温暖化・気候変動の問題です。このいずれにおいても日本の取り組みが極めておくれている、あるいは後ろ向きであることに極めて残念な思いとともに、先々への大きな不安を持たざるを得ません。

核兵器廃絶は本日のテーマではないので、ひとまず置いておくとして、地球温暖化・気候変動については先に陳述された方からも指摘されておりましたように、昨年11月にドイツで開催されておりました国連気候変動枠組み条約第23回締約国会議いわゆるCOP23において、2015年に採択されたパリ協定の実施段階に入る2020年に向けた温室効果ガス排出削減の国別目標を引き上げることが宣言に盛り込まれました。強制力が伴わないとはいえ、温室効果ガスの排出削減が地球環境において切迫した課題であるとの共通認識が前提にあることは言うまでもないことだと思います。

温室効果ガスの中でも寄与度が高い二酸化炭素については脱石炭の課題が大きなウ

エートを占めており、脱炭素の流れを加速させる努力がされているところです。脱石炭で効果が大きく期待されるのが、部門別二酸化炭素の直接排出量で4割を占めている発電部門であり、再生可能エネルギーによって代替エネルギー源が確保できる石炭火力発電です。COP23においてもイギリスとカナダが呼びかけた脱石炭に向けたグローバル連盟に、フランスやオランダ、ベルギーなど20カ国と米国やカナダなどの7つの州政府が参加し、石炭火力発電の廃止に向けた宣言をしています。

国連は、昨年10月にまとめた報告書の中で、世界の平均気温の上昇を抑えるために、世界各国で稼働している6,700基近い石炭火力発電を段階的にとめることが不可欠だと指摘しています。ところが日本では、新たな石炭火力発電計画が40基ほどもあり、国際社会の要請に逆行する事態となっています。国内におけるこれらの計画が具体化されれば、日本政府がかかげる2030年度のCO₂削減目標が達成できないどころか、6,000万t以上も超過するとの試算が出されています。

この逆行の中にあるのが神戸製鋼による石炭火力発電の増設計画です。削減すべき温室効果ガスの新たな発生源をつくるという点だけでも認めることのできないものです。神戸製鋼による新たな増設分だけでCO₂の排出量は年間700万tが見込まれているわけですが、国立環境研究所の調査によると、この量は2014年から2015年にかけて家庭部門でのCO₂排出削減740万tに匹敵するものであり、神戸製鋼の火力発電増設分だけで消費者側の努力の成果と言える家庭部門での排出削減が無になるほどのものでもあります。神戸製鋼は企業利益優先で社会的利益、公益を軽んじていると言われても仕方ないのではないかと思います。

加えてローカルな視点からも問題を申し上げておきたいと思います。先ほども触れられておられましたけれども、予定地周辺は自動車NO_x・PM法のもとで、NO_xやPMの排出総量抑制対策を図る地域に指定されて、自動車排ガス対策の努力が積み上げられてきた地域ですが、新たな排出源となる石炭火力発電の増設は、これまでの

公害対策の成果を企業利益のために利用するものと言えます。

神戸製鋼は増設される石炭火力発電所からの汚染物質の最大着地濃度地点が芦屋市内であるとしながら、環境保全協定を芦屋市と締結する姿勢は示しておらず、企業としての社会的責任が問われるところです。

次に、2つ目の論点である電力の需給状況からの問題です。この間の節電の努力もあって、電力消費量は年を追うごとに確実に減少しています。2015年の大手電力10社の需要電力量は、2007年よりも13.9%、1,286億kWも少なくなっています。需要に対する供給は十分に足りており、供給量をふやすための発電所増設は不必要であるということです。

電力供給施設の老朽化などによって求められるのは、1つ目の論点との関係でも、温室効果ガスの削減に確実につながる再生可能エネルギーへの転換です。経済協力開発機構OECDに加盟している主要先進国のエネルギー利用に占める再生可能エネルギー比率は、21世紀に入ってから15年で日本が他国に次々と追い抜かれ、2015年において日本が最下位となっています。

環境の創造という視点から見て、再生可能エネルギーへの転換こそが日本に対する世界的要請であり、日本で電力事業を展開する企業の責務だと言えます。

以上、環境面においてグローバルな視点からもローカルな視点からも問題を抱えた神戸製鋼による石炭火力発電所の増設計画には反対であることを重ねて申し上げて、私からの意見とします。

○公述番号11番

西宮からまいりました、○○高校でヨット部の顧問をしております○○と申します。

まず、ヨットについての大前提みたいなちょっと話をさせていただきたいんですけども、ヨットに限らずセーリング競技、ウォータースポーツ全般に言えることなんですけれども、まず何より優先されることが水質がよいということなんです。水質がよいというのは、もちろん透明度、それから悪臭がない、艇体等に付着する浮遊物やごみ、油、そういうものが浮かんでいない。

当然きれいな水の中でスポーツをやっているとモチベーションが上がりますし、汚い水の中であればモチベーション落ちるということもあるんですけども、その水自体が選手の口に入ってきたり、あるいはけがを負った場合、その傷口に汚水が入ってくるというようなことになりますと大変なことになりますので、まずは水質がよい点は非常に大事なものです。

それともう1つがセーリング競技、特にそうなるんですけども、風を使って動くスポーツですので、ヨットが風上に向かう場合というのは浮力というのを利用するんです。その浮力を利用する場合に、練習海面の近くにやっぱり熱上昇風というのが必要になってきます。実はこの風の影響というものを非常に受けるわけです。

ここら辺が前提になるんですけども、私が勤務しております○○高校のヨット部というのは、兵庫県の公立高校の中では唯一ヨット部のある学校です。芦屋の海洋体育館というところを艇庫にしておりまして、ここから阪神高速の湾岸線を通りまして尼崎西宮芦屋港と言っておりますが、その西海面、場所で見ますと芦屋川河口のあたり、ここを練習海面にしております。

ここを練習海面にしておるんですけども、さまざまな大会が全国各地で行われますので、いろんなハーバー、マリーナに出かけて行くことがあるんですけども、残念ながら

ら私、ことしで18年見ておるんですけれども、我が〇〇高校が行っている練習海面が全国のいろんなハーバーの中で最も汚い、水質が悪いと。

具体的にはどういう形であらわれてくるかといいますと、ヨットのおなかの部分、ハルというんですけれども、ハルの色がもう黄ばんでしまうんです。大体長いこと使っておるといふ部分もあるんですけれども、ほかの学校の艇のハルが白いのに、尼崎西宮芦屋港、そこの芦屋川河口流域で行っている、浮かんでいるうちの艇のハルが黄色いというのは、まさにこれは海洋が非常に汚染されておるといふことの説明にもなりますし、それから最初にも申し上げましたが、モチベーションも関係しますけれども、けがをした場合等々、そういうところを考えると、余りにもそんなによろしくないわけです。

じゃあなんでそんなに汚くなってしまふかということなんですが、尼崎西宮芦屋港というのは、これは神戸港に隣接しておりまして、防波堤で少しの切れ目はあるんですけれども、結局神戸港の水が全部こちらに、先ほど指摘がありましたけれども、余り流れのない水域ですので、汚染が全部こちらに来てしまうという部分があります。

それから排水温、温度が上昇する。火力発電所が設置されて排水が出てくることによって水質が悪くなっている。それによっていろんな汚染物質とともに海中にいるプランクトン等、汚れた水がこちらに来てしまうという部分があります。現在でもこのような状況であるにもかかわらず、さらにここに新設をされるということになってまいりますと、当然海水がきれいになるわけではありませんから、さらに水質が悪化される。

それから、ここ私が顧問をやっている中で、やはり風の動きというのは、実は変わってきております。最初に熱上昇風のことを言ったんですけれども、昔は夏になりますと、南のシーブリーズといわれる風がかなり来てたんですけれども、風がどんどん西へ回って、西へ回ってくるようになってまいりました。先ほどの汚染水とも関

係があるんですけれども、やっぱりここら辺の部分が改善されないとクラブを管理している人間としてはやっぱり非常に困ると。

以上を前提としまして、今回の火力発電所増設に関しましてですが、これは明らかに反対でありまして、これ以上の汚染はされたくない。しかも風まで変わってきてしまうということになると非常に困るわけです。

もともと私どもが練習をしておりますこの海面というのは、ひるがえりますと、世界的にも有名な海洋冒険家であります堀江謙一さんが、今から約50年前ですけれどもディンギーで太平洋をひとりぼっち横断というのをされまして、世界の耳目をひらいた場所でもありますし、それから僕が個人的に非常に心酔しております、60年安保で斃れました樺美智子さんが彼女の中学校ときの日記があるんですけれども、その日記の中で今の西宮になるんですが、御前浜の当時は海水浴場があったみたいですが、そこでレンタルヨットに乗っているという描写があるんです。レンタルボートとかいうのは各地の海水浴場なんかでもあると思うんですけれども、今から70年ほど前になると思うんですけれども、当時西宮や芦屋の海ではレンタルヨットが海水浴場で使われていたというふうな、非常にある意味マリンスポーツにとっては非常に重要な海面がこれ以上もう汚されたくないというようなことで公述を終えたいと思います。

○公述番号12番

まず12番で朝日ヶ丘町の〇〇と申します。

皆さんと違って、賛成の立場で発言をさせていただきます。

私は商社に勤務しておりまして、ヨーロッパとかインドに都合10年ぐらいおりまして、長年外から日本を見るということを経験しておりまして、多少そういう意味で皆さんとは違った物の見方になるんだろうと思いますが、そういう考え方の人もおるんだということでお聞きいただけたらと思います。

電車に乗ったら三宮でも大阪でもJR、阪神、阪急ですぐ行けます。非常に便利なんですけど、これは効用ですよ。紅葉のこうやなしに、利得を得るという効用ですね。ところが反作用って必ずあるんですよ。音が出ますね。いかりのあたりで阪急が通るのを見てください。どんだけ音がしているか。みんな知らん顔ですね。ヨーロッパの人だったら、もう電車やめてくれと多分言うでしょう。反対運動起こりますよ。それかゴムのタイヤを履かせてくれと。日本人は音に対しては非常に許容する民族だから誰も反対しませんけど、反作用なんですよ。物事には必ず反作用があるんです。

今回の発電の問題においても非常に大きな効用があるんだけど、残念ながら反作用があるんです。これは必ず反作用があるんで、反作用というものが効用の裏側にあるということをまず認識しないと、あ、だめだ、あ、だめだ、あ、だめだという形ではやはり総合的な判断ができないような気がします。

今回のことをもっと卑近なことでいいますと、鍛冶屋さんを夫婦でやっていた、長年やっていたけど、鍛冶屋の仕事がなくなってきた、奥さんと相談してどないしよう。食べていけないから、どないしたらいいやろうと。そしたらヒエがあるから、かまどで御飯炊いて、御飯買うてもらおうかと、それで当然そうしたと。そうすると、おいおまえ、かまどから煙出とるぞと、こういう話ですわ。

これはもちろん単位が違うから、そんな簡単な話じゃないんですけども、ただ既に実績があるんですよね。当時のそれなりの評価でもって火力発電よろしいということでも実績としてある。今度高炉をやめるし、そこから出るいろんなものもなくなるし、そのかわりに発電させてもらったかどうかというのが基本にあると思うんですけど、今までの高炉についてもコークスを無尽蔵に焚いて鉄を酸化還元させる。猛烈にコークスを消費する仕事なんです。

それに比べて火力発電は上手にお湯を沸かすだけの話なんです。お湯を沸かしてそのお湯で蒸気にして、蒸気でタービン回して発電する。その排熱をまだ温度高いから、再利用して、そのあげくの果てに皆海にその水を流すと。だけどそれは当然ある程度の温度がありますから、問題が全くないというわけではないけども、そういうことをしたいというのが、今後の考え方だと思います。

最初に火力発電をつくられてから、今後やるについては随分技術的な進歩もありまして、日本は人がやらんことを世界がやらんことをやってきて、これだけ経済が発展した国です。ですから、石炭火力というふうに一言で言われますけども、これは似て非なる火力発電であると、そこまで日本の技術を十分に尽くして、人がたくさん住むところにおいてでも十分に使えるものであるという技術を持った発電であります。現在、石炭で40%、世界で発電されています。日本は34%です。中国は実に70%が石炭火力なんです。

企業のことを言う必要はないかもしれんけども、やはり雇用を守り企業として利益を出して、株主に社会に貢献していくという企業活動という裏側の側面で反作用があるんです。残念ながらその反作用というのは絶対になくならないんです。

日本は技術立国ということで、この技術を中国とかその他後進国に採用してもらう1つのきっかけになるかもしれません。500万人が住むこの阪神にこれだけ大きな石炭火力が存在するという事実をもって、やはり全世界的なことでCO₂の削減というこ

とをするのであれば、中国にしる、インドにしる、その他の国々にしる、この技術はやはり採用してもらおうというきっかけにすべきじゃないかなと思います。同じようなことは、横浜の磯子でも J-POWER が石炭火力の発電を行っています。この神戸だけじゃないんです。

(発言する者あり)

ですから反作用ということ、誰もが否定できないという物の見方が大事でしょうということなんです。

(発言する者あり)

それは私の意見ですから、あなたが違う意見を持たれるのはそれで結構なんですけど、もうじき終わりますから、続けさせてください。

盛んにパリ協定、パリ協定っておっしゃってますけど、後進国の排出削減が地球上では必要なんです。日本はもう乾いた雑巾を絞りきっている状態なんです。ですから、最後に言いますが、どこかの政党が常に使う常套句ですけども、それを使わせてもらったら、今度の火力発電から出てくる煙が私が住んでいる地域に落ちてくるとか、そういう非常に幼稚な議論はぜひやめていただきたいと思います。

(発言する者あり)

事実じゃありません。事実じゃありません。以上です。

(発言する者あり)

幼稚と言われて結構ですよ。私はひるまないから。

○公述番号13番

西宮市宮前町の〇〇といます。

私は芦屋の浜に今新しく建設されているホテルで働くことになっています。今研修中ですので、一応利害関係者ということで申し込みをしました。

<スライド 表紙>

私は神鋼神戸石炭火力発電所増設計画の撤回を求めたいというふうに思います。

<スライド 1 頁>

初めにですけれども、環境アセスメント法は、事業者が環境影響評価を義務づけていますけれども、神鋼は決められた期限内に決められたことを実施するだけで、石炭火力発電所増設計画の推進に不利になること、都合が悪いことは一切公開せず、評価は全て発電所稼働による周辺環境への影響は小さいとしています。県知事や市長意見で指摘された事項への回答を準備書に書かず、審査会へ後出しして市民意見書に反映できなくするなど、不誠実きわまりないと思います。

県や市の担当部局は、許認可権がないと言って、建設そのものに対する態度表明ができない制度だと言っていますけれども、地域住民の健康を守り、よくしていく施策を行うのが地方自治体の役割のはずです。

2017年の3月には、神奈川県知事が横須賀石炭火力発電所方法書65万kw2基に対して、十分な説明がないまま石炭火力発電所建設が進むこと等を強く懸念すると発言しています。現在これは準備書の手続に入っています。

2017年の6月には、仙台市長が経産省や環境省に対して、石炭火力建設に歯止めをしてくださいという要請をしております。2017年の10月には、仙台市で石炭火力発電所の立地抑制に向けた取り組みについてということを発表されています。自治体のまちづくり方策に合わないとか、そういったことで建設の計画の見直しを求める自治体も出てきています。

環境アセスメント法は事業者任せにする欠陥法ですが、自治体関係者は法を狭く捉えるのではなく、できる可能性を最大限活用して、大気汚染を悪化させない、CO₂排出を増やさない、水銀を出さないようにしてほしいものです。一番いいのはつくらないことですので、ぜひともそういう判断を県知事にさせていただきたい。

2つ目の問題です。具体的な問題点として、1つ、最悪の立地条件。2つ、国内最高レベルの排煙処理設備ではない。3つ、最新の高效率発電設備ではない。4つ、水銀除去装置の検討をしていない。5つ、パリ協定脱炭素社会に逆行するという5つの問題について述べたいと思います。

<スライド 2 頁>

前の方も言われていましたけれども、最悪の立地条件ということです。今でもひどい大気汚染地域に、さらに大気汚染物質を増加させる施設をつくることは許されません。SO_x、NO_x、ばいじんは、現状を大きく超える年間排出量となります。

発電所建設予定地から直近400mに密集した住宅地があり、しかも阪神間は大気汚染が激しい地域で、NO_x・PM法に指定された地域です。県民や自治体関係者、ドライバーが十数年にわたって努力した結果、やっとNO₂環境基準の上限値を下回るまでに改善をしてきています。これまでの努力を無にするような石炭火力発電所は許されません。

<スライド 3 頁>

第161回神戸市審査会に提出された補足説明資料（大気質関係2）の10、排煙処理設備の検討経緯、並びに稼働後のばい煙の排出濃度、年間総排出量についてでは、別紙②に年間総排出量として、稼働後の年間総排出量、将来の石炭性状の変動を考慮した試算値の表が掲載されています。

2016年度の実績がSO_x、520t、NO_xは1,328t、それからばいじんが142tですけれども、最大利用率80%では706tに増える。NO_xは1,457tに増える。ばいじんは

203tに増えるということになっています。利用率の基準という70%でも、NO_xだけは少しは下がりますけれども、あとはSO_xが614tに増える。ばいじんも176tに増えるというふうに、相当大きく増えるということになっています。

<スライド 4 頁>

次に、国内最高レベルの排煙処理設備でないという問題です。10年前に建設された磯子火力発電所の設備より性能が劣っています。

神鋼は、国内最高レベルの排煙脱硝装置といえますけれども、磯子は13ppmです。鹿島が15ppm、常陸那珂15ppm、碧南15ppmということで、新しい神鋼のつくるものはこれと同じになっています。

しかし、第161回審査会に提出された資料では、こういうふうなグラフが出されていますけれども、磯子の第1と第2の黒棒ですね、これは協定値ですけども、この黒棒が新設の発電所は11ppmになっています。磯子の13ppmと比べてみますけれども、磯子は運転管理で実際に出しているのは7.2ppm、3年間の平均が7.2ppmしか出していない。磯子1は9.4ppmしか出していないんですね。このように全然性能が違います。

ですから、神鋼と他のところを比べようと思っても、同じ条件で、比較していないので、神鋼の方が性能がすぐれているということではない。磯子の方が非常に優れているというのははっきりしています。

<スライド 5 頁>

これは、神鋼の出した表ですけども、神鋼がこの部分とこの部分を比較して、神鋼の方が性能がいいよというふうに見せたいんですけども、本当は協定最大排出濃度とこの10%、協定濃度、これとを比較しないとイケないわけですね。

NO_xにしても、これは15ppm、これと13ppmとを比較しないとイケないんですが、神鋼は11ppmだということで、これと比較して、うちのほうが低いんだと、性能がいいんだというふうに言いたい。ばいじんの性能は、同じですけども、実際には運転

管理でこれだけしか出さないよというふうに、自分のところのほうで性能がいいというふうに言っていますけれども、これは全くの間違いです。

<スライド 6 頁>

この表の上の部分は、神鋼の資料に出された分を表にした分です。下のほうは磯子1号と2号です。これは磯子の火力ばい煙濃度月報というのがありまして、それからこういう表を作りました。この2010年度、11年度、12年度、磯子の2号もこういうふうに出てきています。

神戸の増設発電所は、硫黄酸化物の稼働後の予想は4 ppmにしますよと言っていますけれども、磯子については2010年度で1.42ppm、11年度で0.78ppm、12年度は1.45ppm、磯子2号にしても2.36ppm、1.55ppm、1 ppm、と非常に少なくなっています。

窒素酸化物にしても神鋼増設発電所は11ppmになりますよと言っていますけれども、磯子2号は7.19ppmになる。ばいじんでも神鋼増設発電所は3ppmと言っていますけれども、磯子2号は1.14ppmしか出ていないというふうに、磯子の方が非常に性能がいいというのは明らかです。

<スライド 7 頁>

それから、最新の高効率発電設備ではないという問題です。神鋼の増設石炭火力は、超超臨界圧設備で、10年前の磯子と同じで発電効率は40%程度です。ここですね、大体40%となっています。

これはずっと石炭なんですね。こういうふうに進歩するであろうと。ガスのほうはこういうふうに進歩するだろうというこのグラフなんですけれども、今の現在、この先進超超臨界圧A-USCというのが実用化をされてきているようなんですけれども、これさえも採用していない。

<スライド 8 頁>

ガスのコンバインドサイクル発電方式、これは関西電力のホームページですが、姫

路の第二発電所で、最新鋭の1,600℃級LNGガスタービンですね。これはコンバインドサイクルへの設備更新工事をして平成27年3月までに新1号から6号基、全てが営業開始をしたと。熱効率は、それまでの42%から、世界最高水準の約60%に向上したということです。こういうガスに何でしないのか、ガスにすることを検討さえしていないということを指摘しておきたいと思います。

それで、住民意見への事業者見解で、近くのガス導管は本計画に必要なガス供給能力を満たしていない。ガス会社に導入増強計画がない。天然ガスを保管する基地を設置するスペースが確保できないという言いわけをしていますけれども、関電の相生発電所がガスへの燃料転換をしたときには、導管の増強工事を行っています。大規模なガス消費施設に供給するための設備投資は可能だと思われれます。大阪ガスがしなくても、神鋼が設備投資をすればよだけのことだと思っています。

<スライド 9 頁>

それで、完成予想図を見ますと、増設発電設備の南側、ここですね、相当広い緑地スペースがあります。ここに保管施設、ガスタンクつくれますし、ここも十分空いています。ここもグリーンで空いています。だから保管設備をつくるスペースがないということを理由にしていますけれども、それは全然違うというふうに言いたいと思います。

それから、水銀除去装置の検討を全くしていないという問題です。水俣条約は、水銀の排出をゼロにすることが基本ですので、基準値を守ればよいということで、全く水銀除去装置の検討もしていないということは許されないと考えます。

5つ目です。パリ協定の目指す脱炭素社会に逆行する問題ということです。パリ協定は、世界の温室効果ガス排出を実質ゼロにすることを目指して、今世紀末までに平均気温上昇を1.5℃以下にすることとしました。そのために、化石燃料をやめて、自然エネルギーへの転換を進める方向に多くの国々が方針を転換しています。

特に化石燃料では、高効率と言われる石炭火力発電所でも、天然ガスの2倍、風力発電の30倍ものCO₂を出すために、直ちにやめる必要があります。フランスは2023年、イギリスは2025年、カナダは2030年までに石炭火力を全廃する方針を決めています。

環境保護3団体がまとめた報告書、グローバル石炭火力発電所トラッカーによると、世界1位の石炭火力発電計画を有する中国と2位のインドで、規制強化や銀行融資引き締めが進んで、100カ所以上の案件が凍結され、また、過去2年間に、大型石炭火力120基分に相当する6,000万kW超の石炭火力発電が、主に欧州連合、EUと米国で廃止されたと報告されています。

投資資金を回収できないリスクが高いとして、石炭を初めとする化石燃料への投資資金を引き上げる動きが強まっています。

一方で自然エネルギーへの転換が急速に進み、世界の風力、太陽光発電の供給電力は800GW、原発の2倍にも達しています。コストも大きく減少しています。世界の人々が脱炭素社会への転換を進める中で、日本は石炭火力建設推進、海外への輸出促進政策を進め、世界の流れに逆行した動きを強めており、神鋼の計画もその一環となっています。

<スライド 10頁>

日本の電力需要は2010年の9,311億kW、それから2015年8,415億kWへ、わずか5年で10%も減っています。

<スライド 11頁>

それから夏のピーク電力を519~1,333万kWも大幅に下回るなど、電力は余っている状態です。

日本政府は、2050年までにCO₂排出80%削減を閣議決定しており、今、新增設しても、2050年には大量のCO₂を出す石炭火力は操業停止に追い込まれるリスクを抱

えた事業と言わざるを得ません。

<スライド 12頁>

神鋼の計画は、製鉄、鉄鋼産業のグローバル競争の中で生き残るため、神戸製鉄所の高炉と上工程を加古川製鉄所に統合し、その跡地に石炭火力発電設備130万kWを増設するもので、企業内設備のスクラップアンドビルドで生産効率を上げ、さらに収益確保の柱である電力事業を強化することが最大の目的です。

石炭の燃焼による大量の大気汚染物質が、地域住民、国民に与える健康被害への配慮やCO₂による地球温暖化への影響低減策など、微塵も考慮していないことは、今まで述べたとおりです。

この計画は、単に神鋼が目先の利益を上げるためだけに建設されるのであり、地元住民、国民、世界の人々全てにとってよいことは1つもありません。神鋼にとっても将来の事業リスクを抱えることとなります。

したがって、白紙撤回されるべきものです。市民の運動と世論で石炭火力増設計画をやめさせましょう。ありがとうございました。

○公述番号14番

意見1を述べます。神戸製鋼に対して石炭火力発電所増設計画は是とすることはできないと意見し、神戸製鋼の売電先である関西電力に対して電力購入契約の見直しを提言していただきたい。

理由1を述べます。兵庫県は環境影響評価室で管理運営するサイト、ひょうごの大気環境によって大気汚染関係情報を提供しています。例えばこの公述を下書きの最中、1月18日23時のPM2.5濃度は発電所所在地灘浜と主な風下の朝日ヶ丘小学校ともに、1m³当たり38μg、さらに環境基準は1年平均値が1m³当たり15μg以下、1日平均値が1m³当たり35μg以下と説明が付されています。兵庫県はこのように大気汚染問題に丁寧に取り組まれていると感じます。一方でPM2.5が神戸製鋼の環境影響評価項目から外れました。

理由2を述べます。電力卸を始めるに当たって開催された芦屋市民への説明会で受けた説明によれば、阪神大震災を転機に製鉄用石炭を発電用に転用する。売電先は関西電力であるとのことでした。これは前時代の発電方法であると考えましたが、今回、発電出力を140万kWから270万kWへ、ほぼ2倍にふやす計画で、稼働は21年と22年の予定で、出力の原発換算1.4基から2.7基へ拡大です。

神戸製鋼は石炭の経済性のとりこになり、地球温暖化問題と大気汚染による住民の健康被害の双方について思考停止に陥っています。危惧されるのは公害のゆでガエル現象です。大気環境の悪い幹線道路、集中地帯を挟んで灘浜の主な風下の朝日ヶ丘小学校の児童たちは登校日には音もなく忍び寄る大気汚染のもとで5時間近く過ごします。

私はこのように環境負荷が激増されそうであるのに、座視に耐えがたくやめるべきとこの公聴会に参加しました。パリ協定は人類の地球上での生存のため譲歩し合って英知を集めて締結した大切な国際協定です。神戸製鋼へは財界のリーダーとして守る

べきです。

次に理由 3 を述べます。消費者は新電力を志向しています。エビデンスとして17年10月25日付朝日新聞記事について私の要約が以下のとおりです。神戸製鋼の売電先関西電力の2017年9月中間決算は、4～9月の電気の販売量は前年比7.8%減の569億kW時。ピークだった2010年同期から25%減り、28年前と同じ水準まで低迷。東日本大震災後では減少幅最大で、家庭・法人向けともに落ち込み、その分で770億円の減収、関西エリア全域では電気の使用量はほぼ横ばいで、電気販売自由化により顧客が離れた影響が大きい。京阪電気鉄道やシャープの堺工場が関電から新電力に切りかえる動きが出ていて、関西電力の岩根茂樹社長は非常に深刻に受けとめていると述べた。以上、引用は以上です。

次に意見 2 を述べます。あと 3 分ですね。石炭火力発電の代替にかなう温室効果ガスゼロの発電を探したところ、兵庫県企画部スペース潮流発電でネット検索できる、明石海峡の特性を生かした淡路市・岩屋沖での潮流発電の図解があります。出典が兵庫県企画県民部となっています。この発電法は潮流がエネルギー源であり、限界利益率が高く、損益分岐点が低い利点があると思いますが、ネックは発電量が低い、これの増大が課題と私は考えています。

これは18年度まで実証実験を続ける予定で、その結果次第で打ち切りとなっても、潮流・波力・温度差の3種類の海洋発電への挑戦を続けられることを願っています。さらに政府は洋上風力発電の導入を促す法案を1月22日に始まる通常国会に提出する方向で調整に入りました。

理由 1 を述べます。国際協定をあまねく守らなければならないというのは資本主義と相反するとの異論があり得るが、官民共同でエコ発電を実験することが最良の選択と考えます。

理由 2 を述べます。京都議定書が締結された02年から14年のGDP成長率（名目）

と温室効果ガスの削減率の関係を見ると、英国は62.1%成長で24.8%削減、ドイツは32%成長で13%削減、米国でも58%成長で4.4%削減なのに、京都議定書の舞台となった日本はマイナス0.4%成長で1.9%削減のみで実績が見劣ります。理由は以上です。

先ほど申し上げたゆでガエルという言葉をちょっと説明します。2匹のカエルを用意し、一方は熱湯に入れ、もう一方は緩やかに昇温する冷水に入れる。すると、前者は直ちに跳びはね脱出、生存するのに対し、後者は水温の上昇を知覚できずに死亡するという比喻です。

御清聴ありがとうございました。